

出入之由

〔大鏡五太政大臣兼家〕うちまゐらせ給にはさらなり、牛車にて北陣までいらせ給へば、それより  
うちは、なにはばかりの程ならねど、ひもときていらせ給とぞ。

〔公卿補任 一條〕寛和三年

左大臣 正二位源雅信六十 正月七日、  
聽牛車、

〔日本紀略九一條〕正暦元年五月廿五日、勅聽關白内大臣〇藤原道隆 乘牛車、出入宮門、

〔本朝世紀〕正暦元年七月十五日戊子、午後、權中納言源伊涉卿、參議同時中卿、參著左仗座、今日被聽  
左大臣〇源雅信 牛車宣旨了、廿一日甲午、午後、中納言藤原顯光卿、源保光卿、參議源時中卿、參著左仗  
座、次左大臣從陽明門、著同仗座、以藏人右少辨源朝臣俊賢、令奏乘牛車、從上東門、可參慶賀之事、時

刻、其後從玄暉門退出、於朔平門外、乘用牛車、即從上東門退出、中納言藤原顯光卿、起座著左衛門陣座  
召、二音彈正少疏曰、佐眞文于時眞文、唯稱進立、下給件牛車宣旨、早罷出、其後戊時、上卿各退出、

○按ズルニ、公卿補任ニハ、永祚元年源雅信ノ下ニ、七月聽牛車トセリ、

〔本朝世紀〕正暦五年五月廿三日甲戌、今日皇太后宮〇一條帝母藤原詮子 自前備後守源相方朝臣宅、移御本

宮、諸司供奉如常、不召御輿、用牛車、上卿皆被申故障、

〔日本紀略三一條〕寛弘八年八月廿三日甲子、政始、今日右大臣〇藤原顯光 召檢非違使、仰云、左大臣〇藤原道長

乘牛車、可聽出入待賢上東兩門、〇中略 亥剋、左大臣參弓場殿、申牛車慶賀、

〔日本紀略十三一條〕寛仁元年三月廿二日辛酉、攝政内大臣〇藤原賴通 上表請罷左近大將、勅許之、即日宣

命、依寛和例、可列左右大臣上、又聽乘牛車、參入宮門、

〔公卿補任 一條〕寛仁五年〇治安元年

太政大臣 從一位藤公季六十 七月廿五日任、  
即日聽牛車、